



福井大学病院、最近の状況

福井大学医学部附属病院長

上田 孝典



昨年とうってかわり、例年になく暖冬の日々が続いております。福井大学病院の最近の状況につき御報告させていただきます。

診療面においては、今回、がん診療連携拠点病院の門戸が大学病院にも開かれたため、本院も申請を行い平成19年1月31日付けで地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。死亡率第一位の“がん”克服に向け、片山寛次診療教授に担当頂いているがん診療推進センターを中心に診療各科の協力を得て、一層のがん診療の充実をはかる所存です。

本院は、病院のレベルの指標として、品質ISO (ISO 9001:2000) の認証を取得しており、禁煙については病院内全面禁煙を実施しておりましたが、バス停の近くの禁煙スペース（本来は、タバコをここで捨てて頂き、院内へ入って頂くためのスペースですが）付近の煙害等への苦情の投書も恒常的にあり、思い切って敷地内全面禁煙を、2月1日よりスタートさせました。喫煙習慣のある方には大変苦痛なことと思いますが、喫煙の害は、血管疾患・がんなど様々な分野で証明されております。これを機会に、是非、必要なら禁煙外来を受診頂き、禁煙をスタートして頂きますようおすすめ致します。

ところで、病院経営については、前号でもきびしい状況を申し上げ、病院教職員協力して、大変な努力をして頂いてきたところです。

しかし、ここに到っても診療報酬の改定をはじめとするマイナス要因の影響を受けております。

来年度は、本年度集中したマイナス要因がかなり除去されますので、診療のレベルは維持しつつも、一層きびしく経営改善をはかりたいと考えております。

今回最も明るい御報告は、新研修医の確保の状況です。一般にマッチングと呼ばれていますが、本年4月より本院での研修を希望した卒業予定学生（他大学出身者を含む。）は、35名と、一昨年11名を最低値として、昨年の20名より更に上昇し、ほぼ新しいシステム以前の数まで回復しました。我々の研修システムが学生諸君から評価されたものと思われる、非常に心強く感じています。この傾向を継続させ、卒後3年目以後も本学の専門医養成コースをぜひ選択して頂きたいと思っています。そのためにも、今回勤務を開始する多数の研修医諸君が満足できる研修を経験できるよう、卒後臨床研修センターと各診療科の連携も一層緊密にし、さらに研修のレベルを向上させたいと思っております。

「頼って頂ける耳鼻咽喉科に」

耳鼻咽喉科・頭頸部外科長 藤枝 重治

耳鼻咽喉科・頭頸部外科では、耳、鼻、のど、口腔、頸部の腫瘍、炎症性疾患、奇形、感染を治療しています。当院では、腫瘍や慢性的病気で手術を必要とする疾患の患者様が多く受診されています。年間約500件の手術を行っています。主に、癌の手術、鼻の手術、耳の手術、良性腫瘍の手術などです。診療の原則は、1) 誠実な態度で診察をし、理論に基づいた治療を行う。2) チーム医療を大切にし、頭頸部癌の克服を第一とする。3) 耳の手術、鼻の手術など生活の質(QOL: quality of life)を高く維持することを目的とした機能手術の向上に心がけるの3つです。最終的には、地域において絶対的に信頼できる診療科であり、福井大学の耳鼻咽喉科・頭頸部外科に行けば何とかしてくれると思って頂けるようになりたいとスタッフ全員が努力しています。臨床の技術はもちろん大切ですが、基礎的な知識をも兼ね備えることによって臨床医としての幅を広げ、患者様により安心を与えることができると考え、当科のほとんどの医師は大学院で基礎的な研究を修了しています。

当科において日本の耳鼻咽喉科の中で特色ある治療は、スギ花粉症に対する舌下免疫療法です。全国で6カ所で行っていません。花粉症に対する免疫療法は、これまで皮下注射で行ってきました。そのため長期間、毎週ないしは隔週受診して頂き、痛い注射をしてきました。しかし時には、喘息になったり、ショックを起こすこともあるので、スギのエキスを舌の下で数分舐めて頂く舌下免疫療法に切り替えました。これまで日本で最も多い約120名の方に行いました。患者様は皆さん、自宅で毎朝、スギのエキスを舐めて頂いたわけで

す。その結果、スギ花粉飛散期において内服薬や点鼻薬をしなくても過ごせるようになりました。症状は、ゼロにはなりませんが、半分ぐらいには軽減されました。120名のうち、1人のみ副作用として頑固な咳が誘発されました。しかし他には副作用はありませんでした。スギ花粉症の小学生や中学生のお母さんから、「この子は一生薬を飲まないといけないのでしょうか？」と尋ねられるととても辛い思いをしていたのですが、この治療法なら薬を飲まないようにできるかもしれません。来年からは、12歳以上に適応を拡大しようと思っています。

耳鼻咽喉科というのは、舌癌、口腔癌、上顎癌、喉頭癌、咽頭癌、甲状腺癌、耳下腺癌など頭から頸部にできた癌を治療しています。そのため頭頸部外科という名が付いています。いずれも息をすること、飲み込むこと、話をするに直結する場所なので、放射線や抗癌剤を併用して少しでも癌を小さくして、手術する場所を減らす努力をしています。しかし、治らなければ何にもなりません。取るべき時は心を鬼にして腫瘍を取り、その代わり血管をつないだ皮膚や腸管を欠損部位に持ってきて、よりよい生活ができるように工夫しています。手術時間は約10時間から14時間かかります。しかしこれだけのことをやっても残念ながら治せないこともあります。その時には、本人、家族の方とよく話し合い、悔いのない生活を送って頂けるように努力しております。

耳の手術は顕微鏡を使う、繊細な手術です。当科は県内では、癌治療とともに自慢できる手術です。鼓膜を再生したり、耳の中の骨のつながりをよくして聞こえを良くする手術、ほっておくと髄膜炎になる真珠種をとる手術、全く聞こえない方に人工内耳を入れて聞こえるようにする手術などを行っています。手術件数はここ数年延び、全国で10番に入る症例数です。最近、聴神



経腫瘍に対しても耳からのアプローチを行っています。そうすると顔面神経が保存でき、良好な術後の生活がおくれます。顔面神経麻痺に関する手術も行っていきます。

鼻の手術は、アレルギー性鼻炎に対する手術と副鼻腔炎に対する手術を内視鏡を用いて、鼻の中から行っています。昔は、歯肉を切る方法が行われていましたが、1994年頃から全国に先駆けて内視鏡手術に切り替えました。全身麻酔で行い、昔のような痛いことはありません。アレルギー性鼻炎に対する手術は、身長150cm以上の子供ないしは成人を対象にしています。小さいときに手術をしてもどうしても思春期になって症状が悪化するのです、思春期を過ぎて行うようにしています。

そのほかいろいろな疾患に対する手術療法、保存的内服治療、めまいに対する体操など行っています。毎日、この福井から新しい治療法を世界に発信したいと考え、日常診療に励んでいます。どうぞ今後ともよろしくお願い致します。

健診事業：PET腫瘍(乳房・婦人科検査付)コースを開始

本院では、健診事業として「脳ドックと腫瘍ドック」の2つの専門ドックを実施していますが、平成18年10月から「腫瘍ドック」にPET腫瘍(乳房・婦人科検査付)コースを加えて、現在、日帰り完全予約制で次のコースにより実施しています。

なお、当ドックは、主に3T-MR装置、PET-CT装置など先端医療画像機器を利用した専門ドックで、午前中に検査を受けられますと午後には専門医から検査結果の説明を受けることができます。

【専門ドックのコース】

健 診 種 別	実施曜日	所要時間	料 金
脳ドック	月・水	約4時間	33,600円
腫瘍ドック PET単独コース	火・木・金	約5時間	86,100円
PET腫瘍コース	火・木・金	約6時間	120,750円
PET腫瘍(胃内視鏡付)コース	木	約6時間	136,500円
PET腫瘍(乳房・婦人科検査付)コース	金	約6時間	129,670円

- ・ 検査日程上、脳ドックと腫瘍ドックは同一日に受診できません。
- ・ 資料請求又は詳細につきましては、下記にお問い合わせ願います。

検査内容・日程、料金等何でもお尋ねください！！

福井大学医学部附属病院
先端医療画像センター 健診室

専用電話：0776-61-8550 (平日/9:00~17:00)

医療情報部について

医療情報部 副部長 山下 芳 範

「医療情報部」という名前はあまり聞きなれないと思いますが、本院では特殊診療施設の1つとして設置されています。特殊診療施設といっても診療を行なっている部門ではありません。診療を支援する部門です。欧米では、結構歴史のある部門ですが、日本では比較的新しい部門で、大学病院や比較的規模の大きい病院で設置されている程度です。

「医療情報」とは医療に関わる情報を意味しており、これらの情報を統合的に取り扱うとともに、病院内のIT化の企画・立案・構築・運用・情報安全管理を行なうのが「医療情報部」の役割です。

情報というイメージからは、皆様に直接目に触れる部分として、料金の計算や受付の機械などを想像されると思いますが、これらはほんの一部であります。

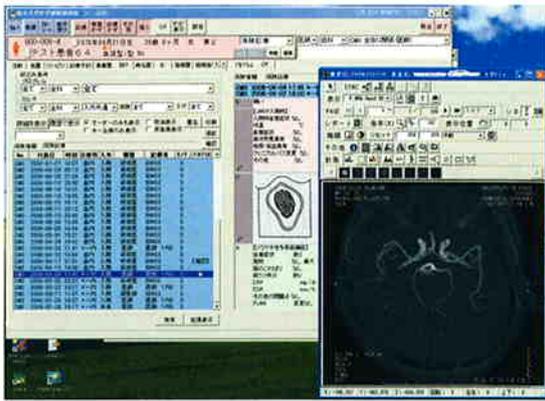
近年、医療の世界でも情報化が急速に進んでいます。診療に利用する検査のデータや画像などもコンピュータを利用して、迅速でかつスピーディに結果を得られるようになりました。これらを生かすためには、情報を効率よく運用し、迅速かつ的確に医療に結びつけなければなりません。そのためには、病院内での医療情報を連携するシステムやネットワークが必要となります。しかしながら、多くの病院でもこのような情報化が取り入れられるようになりましたが、これはここ最近のことです。本院では、開院のときからこのような情報化に取り組んでおり、現在の医療情報部の前身となる組織が設置されてきました。このような黎明期から取り組んでいることもあり、現在広がりつつある電子カルテに関する事からについて、本院での成果を発表・応用するなど大学病院としての役割も担っています。

これからは、国の施策としてあげられているe-japan計画やu-japan計画の中で医療のIT化が進められていますので、電子カルテなど医療でのIT化は拡大するものと予想されます。本院でも、診療の情報を統合的に取り扱う電子カルテの導入を行なっておりますし、診療に必要な情報の電子化も推進しています。しかしながら、医療情報は皆様の非常に重要な情報でもありますし、診療を行なう上でも不可欠な情報でもあり、情報の正確性、迅速性、安全性が求められます。また、病院では電子カルテに代表されるように、医療情報の利用は24時間365日休みなく利用されるものでもあり、他の業種と違って、これらのことを休みなくサポートすることが必要となります。このような運用や管理を、専門的な立場から行なうのが、「医療情報部」の役割となっています。

最近の話題として皆様の関心の高いものとして、「個人情報保護」があると思います。皆様の医療情報を取り扱っているわけですから、このことについても守備範囲となります。例えば、写真にあるものは、個人情報保護法の中にもある、患者様の情報を正確に保管するということを担保するために、情報の記録の中のサインを電子的に行なう方法として、ICカードと指紋の組み合わせによる情報保護の新しい試みを始めます。表からは見えない部分ですが、皆様の大切な情報を、より安全により確実に取り扱うこともわれわれの使命として日夜努力を行なっています。

このようなハード面だけではありません。例えば、本院は大学病院ですので、学生の実習もありますので、教育という側面もあります。職員への教育も行なっておりますが、学生への情報の取扱いの教育や実習にあたっての指導も行なっています。電子的な情報の管理だけでなく、このような教育を通し皆様の情報を保護することも役割の1つです。

多くの仕事は、縁の下の仕事であり直接皆様の目に触れる機会が少ないのですが、病院における情報管理を行っている部門として、医療情報部というものがあることを理解して頂ければと思います。



医療情報の統合した電子カルテ



情報の安全管理対策の例

予約制乗合タクシー「げんき君」について

＜大野市地区・勝山市地区・永平寺町栃原・浄法寺地区⇔福井大学病院間＞

福井大学病院～大野市間の路線バス廃止に伴い、代替の交通機関として、福井大学病院への通院等を目的にドア（自宅）t o ドア（福井大学病院）の送迎ができる予約制乗合タクシーが平成18年10月2日から運行されています。

予約制乗合タクシーとは、乗りたい時に電話等でご予約を頂くと、乗り合いのジャンボタクシーが、複数の方をそれぞれのご乗車場所から目的地の戸口まで送迎するサービスです。



運行時間と料金表

お迎え区域	運賃(片道) お一人様	大野方面出発時間(行き)		お送り区域	運賃(片道) お一人様	福井大学病院出発時間(帰り)	
		①便	②便			①便	②便
旧大野市より南・東地区発	1,600円	6:50~7:05	9:05~9:20	福井大学病院発		11:00発	13:10発
旧大野市内・旧大野市内より北地区発	1,300円	7:05~7:20	9:20~9:35	永平寺町栃原・浄法寺・鳴鹿地区着	400円	11:05~11:15	13:15~13:25
勝山市内東地区発	1,000円	7:20~7:35	9:35~9:50	勝山市内西地区着	800円	11:20~11:35	13:30~13:45
勝山市内西地区発	800円	7:35~7:50	9:50~10:05	勝山市内東地区着	1,000円	11:35~11:50	13:45~14:00
永平寺町栃原・浄法寺・鳴鹿地区発	400円	7:55~8:05	10:10~10:20	旧大野市内・旧大野市内より北地区着	1,300円	11:50~12:05	14:00~14:15
福井大学病院着		8:10着	10:25着	旧大野市より南・東地区着	1,600円	12:05~12:20	14:15~14:30

■ 運行日：平日（月曜日から金曜日）の毎日
（土曜、日曜、祝日を除く。）

■ 問合わせ先：有限会社 高志タクシー（予約配車センター）

☎ 0120-203-425

URL <http://www.koshikanko.com/info/genkikun.html>

血管造影装置が新しくなりました

附属病院放射線部血管造影部門の設備が平成18年9月更新され、性能が飛躍的に向上した血管造影装置により各分野での活用が期待されています。設備の概要と活用法について紹介させていただきます。

血管造影部門ってどんなところ？ 放射線部血管造影部門

平成18年9月より新血管造影装置が稼動し始めました。1台は心臓血管を撮影する装置、1台は頭部から足先までをカバーするデジタルサブトラクション画像（血管の画像のみを描出する処理）を得られる装置です。

装置の特徴として、経年変化のない安定した画像を提供するFPD（フラットパネルディテクタ 液晶パネルの原理を利用）を装備しています。また、患者様の病態に合わせて、開胸・開頭をしなくても血管障害を治療できる血管内手術に貢献できるようになりました。

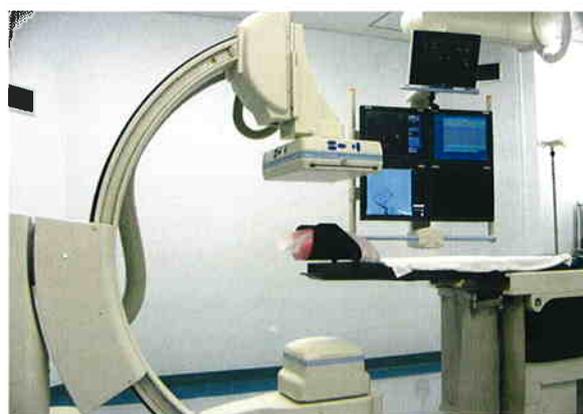
近年、頭部血管障害のひとつである動脈瘤の治療判定に、3D画像処理技術が利用されるようになり、当院の装置もこれに対応しております。また、国内の施設に先駆けて、血管造影装置によるCT画像の作成技術をサポートさせたことで、検査を受けられた患者様の治療後の診断に大きく貢献できております。このように、血管内手術を助ける多くの画像を得られるのと同時に、医療被ばくを低減させるためのフィルター処理やパルス透視、検査中の被ばく状況を表示するシステムも装備しております。

装置の導入に合わせて、検査室にイメージカラーを取り入れ、清潔感のある淡いブルーと温かみのある淡いオレンジで仕上げられています。また、検査室内の調光システムでもたらされる適正な光量は、長時間検査を行う施行医の負担を軽減しております。

このように、血管造影部門は、患者様に安心して高水準の治療を受けて頂けるように、施行医師・看護師・放射線技師の連携を確保しながら検査をサポートしています。



心臓カテーテル検査室（SIEMENS AXIOM Artis dBC）



一般血管造影検査室（SIEMENS AXIOM Artis dFA）

平成18年9月より、福井大学医学部附属病院の血管造影装置がリニューアルされました。この装置はレントゲンを用いてリアルタイムに体の中を見ることができ、合成樹脂でできた細長い管であるカテーテルを挿入したり、そこから造影剤（レントゲンフィルムに写る薬剤）を血管の中に流し込んだりして、様々な血管の病気の診断や治療に役立ちます。今回導入された装置はフラットパネルディテクタを搭載しており、従来の装置に比べ高画質であり、患者様に対する被ばく量が軽減されているというのが最大の改良点です。

では、この装置を使って具体的にどのようなことがなされているのか、循環器領域を中心に紹介したいと思います。最も多く用いているのは、狭心症や心筋梗塞といった、いわゆる虚血性心疾患です。この病気は、心臓に酸素や栄養を送っている冠状動脈が動脈硬化により細くなったり詰まってしまうため、強い胸痛が出現します。特に血管が詰まってしまう心筋梗塞の場合、適切な治療が行われなければ死亡率は30-40%と非常に高率です。そのため、我々の施設では心筋梗塞の患者様が来られた場合、即座に血管造影装置を用いて冠状動脈を写し出し、どの血管が詰まっているのかを調べ、詰まった血管をバルーンやステント（金属製のコイル）で拡張し血液が再度流れるようにする治療を行っています。また、不整脈でお悩みの患者様に対する治療法の一つとして、心筋焼灼術を行っています。これはカテーテルの先端から高周波を流すことにより心筋の一部を凝固壊死させ、不整脈の回路を断ち切り、不整脈を起こさないようにします。弁膜症や心筋症といった心臓のポンプが障害を受けている場合にも、重症度の評価や手術適応の決定のためにカテーテルによる検査が行われています。その他、脳外科領域や放射線科領域においても血管造影装置は、なくてはならない存在となっています。

このように血管造影装置は色々な面で役立っており、このシステムをもって24時間いつでも重症の患者様の診断と治療を行えるよう体制を整えています。この度の設備面での充実に伴い、より患者様にやさしい医療を提供できるようさらに努力していきます。

